

第 203 回
定例探鳥会

日時：2003 年 11 月 9 日 (日) 天候：曇り
コース：高来神社 大堂 浅間山

ジョウビタキやカモ類など冬鳥たちの飛来情報が届きはじめ、高来神社の境内の木にもシメが姿を見せていました。渡ってきた冬鳥を探そうと出発です。急な坂を登っていくと前方からにぎやかな鳥の音が聞こえてきました。メジロに似た色の小鳥が十数羽、群れで木の実をついばんでいました。鮮やかな黄色や赤色が見えソウシチョウとわかりました。ここでの記録は久しぶりです。歩いているとチツというアオジの地鳴き、ツグミの仲間のシーツという声、シメのパチツという声など冬鳥の気配はあるのですが、なかなか姿は見るできませんでした。まだ数としてはそんなに多くはないようです。浅間山では上空を飛ぶミサゴを見ることができました。低空を悠然と飛ぶタカはやっぱりかっこいいですね！

きのう(11月8日)から滄浪閣で大磯・文化祭が開かれています。雨が降りそうな空模様になってきたので、文化祭の宣伝をしてすこし早目に解散しました。

2003年はこまたんにとって記念となる年でした。定例探鳥会が200回を迎え、会報も200号を刊行しました。平塚市民プラザでの200回記念の展示会も盛況でした。大勢の方の御協力に支えられてここまで続けられてきたことに感謝の気持ちでいっぱいです。丹沢でのアオバト繁殖調査についてはBINOSに論文を掲載し、神奈川支部の発表会でも報告できました。虫窪での冬季のアオバト調査もBINOSに掲載されました。照ヶ崎でのアオバトの幼鳥観察など、地道に続けている観察が着実に実を結んでいきます。

2004年も相変わらずのこまたんですが、ご愛顧のほどよろしくお願ひします。

参加者		参加人数 30 名 (敬称略)				
1. 鈴木 逸子	2. 森田 義雄	3. 下倉 紘一	4. 入江 一彦	5. 服部 寛之		
6. 佐藤 忠史	7. 沢田 興三	8. 別所 三郎	9. 石原 遼	10. 吉尾 孝		
11. 小野 肇	12. 小野 佳子	13. 赤井 啓吾	14. 佐藤 裕子	15. 岩沢 登茂子		
16. 片倉 暹	17. 松下 弓子	18. 清水 哲子	19. 茂木 良平	20. 尾崎 千恵子		
21. 紺 龍彦	22. 伊藤 武雄	23. 大谷 道男	24. 大谷 秋代	25. (田端 裕)		
26. (西ヶ谷 修一)	27. (岩佐 昌夫)	28. (内山 規矩雄)	29. (金子 典芳)	30. (斎藤 常實)		

見聞きした鳥		種類数 23 種 (ドバトを含む)				
1. サギ sp	2. トビ	3. ミサゴ	4. キジバト	5. アオバト(声)		
6. ドバト	7. ヒメアマツバメ	8. アオゲラ	9. コゲラ	10. ヒヨドリ		
11. モズ	12. ジョウビタキ	13. ツグミ sp	14. ウグイス	15. ヤマガラ		
16. シジュウカラ	17. メジロ	18. アオジ	19. シメ	20. スズメ		
21. カケス	22. ハシブトガラス	23. ソウシチョウ				

こまたんの秋祭り

秋はお祭りのシーズンです。大磯町でも11月に恒例の二つのお祭りが行われ、こまたんも参加しました。

大磯・宿場祭 大盛況「あおばとや」を出店

11月2日は恒例の宿場祭り。こまたんも「あおばとや」を出店しました。宿場祭りは大磯の方々にアオバトを宣伝することとこまたん活動資金の捻出もかねています。今年のお店の場所は舞台の近くだったので太鼓やいろいろな催し物が居ながらに見ることができ、楽しく過ごしました。この盛り上がりの様子をこまたんメールよりピックアップしてみました。また来年の宿場祭りで販売できるものを提供できる方、よろしくお願いします。

大磯宿場祭りは好天に恵まれスゴイ人出でしたね。鈴木さんの可愛いぬいぐるみ、山田さんのお嬢さんのTシャツ、よかったね。斎藤隊長の論文集...少部数でも売れたことに意義あり。全部で？万円の売り上げでした。市民活動センターの金庫に近日入れておきます。何よりも「アオバト伝道師」たちの活躍です。またまた「アオバトファン」を増やしましたね。ピラはもっと印刷すればよかった。350部ほどをケチケチ撒くことはなかった。反省。絵はがきはないか？また言われました。下倉さん製作の鳥シールは喜ばれましたね。みなさんありがとう。ほんと、ほんと、楽しい宿場祭りでした。それに、竹沢さんのお嬢さんが焼いたクッキー美味しくて大人気、あっというまに売り切れましたよ。有り難うございました。

今朝、照ヶ崎にアオバトを見に来られた方がいらっしゃいました。「アオバトを見ることはできますか？」と...。今朝は1時間に3~4回しかアオバトは飛来しませんでした。たまたま5羽が岩礁に降りたところを、スコープに入れて見てもらいました。「初めてアオバトを見ました！」と、とても喜んでくれました。この方、平塚のプラザの展示もご覧になって、昨日の宿場祭りでTシャツを買われたそうです。宿場祭りでは「こまたんの若い方にアオバトの説明を聞いたので、来てみました」とおっしゃっていました。こうした出会い、大切にしたいですね。



大磯・文化祭

11月8日(土)から10日(月)まで、大磯町の滄浪閣で大磯・文化祭が行われました。こまたんの展示会場は階段を二階に上がってすぐの部屋で、いつものように星の会と半分ずつに仕切って使いました。

今回はアオバトの展示を少なくして南那津子さんの「大磯・照ヶ崎海岸の貝」のスペースを大きくしました。部屋の片側の壁面に沿ったテーブルの上に、貴重な収集を一面に広げて展示しました。6年間にわたって収集した標本は約440種類になるということで、今回の展示はそ



のごく一部でしたが、部屋に入っていきなり目に飛び込んでくる光景は壮観でした。来場した人が一番興味を示したのもこの展示で、身近な海岸で見ることができるさまざまな貝の種類の多さ、美しさに感激していました。また、砂粒ほどの貝がルーペでみると一人前の形をしていることには驚くとともに感動を覚えました。「これは大磯の宝だ!」「子どもたちにも見せてやりたい!」という大磯町教育長の言葉が印象に残りました。特に気負ってやっていたわけではない収集の積み重ねの記録が、見る人の心を捉えたのだと思います。

もちろん、こまたんにはアオバトの展示は欠かせません。小野さんのアオバト写真童話『ぼく、アオバトの幼鳥!』。これは傑作です。写真と童話風の語りで見事にアオバトの幼鳥の冒険と照ヶ崎を去るさびしさを表現しています。小野さんがこの夏照ヶ崎に通いつめた幼鳥への思いがなければ出来ない作品です。また、アオバト関連では、石原遼君(中2)が温泉について調べたレポートに感心している人が大勢いました。次の調査を楽しみにしているといってくれた人もいました。吉田さんのカービング、鈴木さんのミニぬいぐるみ、山下さんのペーパークラフトなど、アオバトの表現への違った取り組み方も来場者の目を惹いていました。



高麗山の花の写真は、特に女性の方に人気がありました。普通の図鑑のような取り上げ方ではなく、何かの形になぞらえたり、変わった名前ものを集めたりと、興味をひくまとめ方が楽しめました。

高麗山の蝶は、普段はあまり関心を持って見ていないものをきれいな写真と解説で説明し、高麗山の花とともに身近な自然の魅力を伝えていました。

3日間の期間中、大勢の方が会場に足を運びました。その中でもこまたんのコーナーが一番にぎやかだったと自負しています。

なるほど・ザ・野鳥 (No.13)

野鳥たちの不思議な行動や生態のおもしろい話をインターネットなどから集めています。それらの中から一つか二つずつを紙面に余裕があるときにこのコーナーで紹介していきます。

(15) 渡り鳥って、なぜ渡るの? - 渡り鳥の習性

鳥類学において渡りとは、遠く隔たった繁殖地と越冬地との間を鳥が毎年季節的に往復することをいいます。ある鳥ではその距離が約5万7200キロにも達します。

なぜ、渡り鳥はこんなにも長い距離を移動するのでしょうか。これは、渡りの起源への疑問となります。今まで多くの説が出ましたが、ある人は「北半球の北方は広大な面積の陸地が占め、初夏には無数の昆虫が発生し、鳥類の繁殖には好都合である。しかし、秋には気温が下がり食物が減少するために南へ移動し、これがだんだん広範囲なものとなった」と説明しています。しかし、シギ、チドリの類では渡りの途中の太平洋岸に、冬でもかなりの食物があります。にもかかわらず南半球まで渡ります。また、渡り開始時にはまだ十分な食物があるにもかかわらず、渡り始めます。食物は渡りに重要な要因の一つであると考えられますが、今のところ十分な説明は得られていません。

このように起源の問題は、再現することができないので、大変難しい問題といえます。

鳥 報

冬鳥の観察記録が多数集まってきています。その中で主なものをご紹介します。

カシラダカ ... 150+羽、11月の中旬以降、土屋の谷戸の芦原で大きな群れが見られている。

タヒバリ ... 50+羽、遠藤原の畑地で群れて採餌。松岩寺そばの牛糞に20+羽が集まり採餌。

アカハラ、シロハラ ... 11/11、鷹取山

ピンズイ ... 11/16、1羽、虫窟

ルリビタキ ... 11/24、3羽、吉沢の池

ミソサザイ ... 12/2、1羽、鷹取山

オオバン ... 花水川、渋田川に少数が飛来

ミコアイサ ... 11/26、1羽、花水川

アオバト ... 11/19、1羽、早戸川にて、枯れ木にとまる

ベニマシコ ... 11/19、3羽、早戸川

カヤクグリ ... 11/19、早戸川

オシドリ ... 11/12、245羽、宮ヶ瀬湖、11/12、101+羽、早戸川

ジョウビタキ、シメ、ツグミなども数が増えており、平塚・大磯では普通に見られるようになってきた。

カモ類(コガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ)も花水川、渋田川に飛来しているが、数はあまり多くないようです。

【お知らせ】

土屋・遠藤原自然観察会(第47回市民探鳥会)

2003年12月21日(日) 午前9時から、午後2時頃に現地で解散。雨天中止

コース：土屋霊園駐車場 土屋の谷戸 遠藤原の台地 愛宕神社
土屋霊園入り口(バス停)

集 合： 午前9時、土屋霊園駐車場

午前7時45分、JR平塚駅北口 地下道入り口階段付近

(8:08発のバスに乗車します。秦野駅南口行きで「土屋霊園入り口」下車)

持ち物：昼食と飲み物は忘れずに。防寒対策をしっかりとお願いします。

定例カウント調査

吉沢 & 土屋 2004年1月3日(土) ... 第一土曜日

鷹取山 2004年1月10日(土) ... 第二土曜日

午前7時に、高麗ハイツとなりの駐車場(青空市場)に集合です。午前中に解散。雨天中止

連絡先：岩佐 昌夫 0463-55-6142 内山 規矩雄 0463-33-4322 金子 典芳 0463-32-5583

次回の定例探鳥会は2004年1月11日(日)です。午前7時30分 高来神社に集合。

緑鳩(アオバト) 第202号 / 12月号 発行所:こまたん

斎藤 常實 0467-51-3543

岩佐 昌夫 0463-55-6142

こまたんホームページアドレス <http://www2u.biglobe.ne.jp/komatan/>
日本野鳥の会神奈川支部ホームページ <http://www.mmjip.or.jp/wbsj-k/>